

日本発ドイツ便り～ニュルンベルクでお散歩①鉄道博物館

「ニュルンベルク」という街の名前が有名なのは、ワグナーのオペラ『ニュルンベルクのマイスタージンガー』(Die Meistersinger von Nürnberg)、そして、第二次世界大戦後の世界軍事裁判、「ニュルンベルク裁判」ではないでしょうか？最近では、クリスマス市(Christkindlmarkt)も有名ですね。突然の思いつきですが、気の向くままに、最近のお気に入りの街、ニュルンベルクをご紹介しますと思います。

もともとニュルンベルクは長い歴史のある職人の街で、「鉛筆」や「クラリネット」はこの街で発明されたものなのだそうです。(なので、空港の免税店には鉛筆屋さんがあります。)あとは、1835年にドイツで初めて鉄道が開通した街としても有名です。



ニュルンベルク中央駅。石作りで壮大な感じです。

中央駅の近くには「DBドイツ鉄道博物館」もあります。なんとここ、1899年に「バイエルン王国国立鉄道博物館」として作られた、ドイツ最古の鉄道博物館なのだそうです。



ここには前回行って見ましたが、鉄道の歴史はもちろん、ドイツで初めて走った機関車 Adler(アド

ラー)号から最新の新幹線、ICE(イーツェーエー)の原寸大模型があったり、日本からのドイツ旅行の目玉、ロマンチック街道のあのお城、ノイシュヴァンシュタイン城を作った、ルードヴィッヒ二世とかビスマルクといった歴史上の人たちが使っていた特別車両なんかが置いてあって、なかなか楽しかったです。実際に触って動かしてみたり、模型で遊べるもの楽しいです。鉄道博物館はドイツの他の街にもありますが、ここは 1000 平方メートルあるそうで、なんでも館内と野外合わせると 160 両くらいの車両が展示されているそうです。最古なだけではなく、ドイツ最大の鉄道博物館ですね。



一番古い Adler(アドラー)号と最新の ICE。Adler といえば、鷲のことです。



ノイシュヴァンシュタイン城を作った、有名なこの人(ルードヴィッヒ二世)の専用列車は



こんな感じできらびやかでした。屋根には王冠です。
車両の色は上の肖像画のルードヴィッヒさんが着ているマントの色と同じ濃いブルーでした。
内装も豪華で、なんと天井画まで描かれていました。



少しだけ映っている隣のシンプルな車両はビスマルクさんの専用車両。
内装とかも確かに贅沢には出来ているのですが、隣と比べると地味～。でした。

鉄道の歴史がよく分るし、実際に触ったり、動かしてみたりは楽しいですが、残念ながらドイツの鉄道の歴史は楽しいばかりではないのです。戦争のとき、各地から収容所へ、ユダヤ人の輸送に使われたのも鉄道でした。博物館でも、その当時の写真や音声、輸送を命じる書簡、輸送されていた人達のリストなどを見ることができます。今ここで起きていることではないのに、鳥肌が立つような気分でした。(また別の機会に触れる予定ですが、ニュルンベルクはナチスの最重要都市の一つでもあったため、その分、街は徹底的に破壊されています。いろんなところで、ナチ時代の負の遺産が見え隠れする街です。)

また、戦争後のドイツの東西分断、それぞれでの鉄道の発達の歴史などなど、鉄道ファンにはもちろん、ファンではなくても興味深いと思います。

鉄道を通して、「ドイツ」が見えてくる、そんな博物館でした。

機会があればお出かけください！ニュルンベルク案内、多分

つづく(かな?)